

※以下の記号は引用元の調査業務で、黒塗りは専門家、白抜きは自治体のコメントを表す。

○：令和2年度／令和3年度 自然環境保全基礎調査マスタープラン等検討業務

▽：平成24年度 自然環境保全基礎調査（第7回）総合とりまとめ業務報告書

| 調査分野・項目 | 位置付け・目的 | とりまとめの考え方 | プランの達成状況評価の指標の例 | 成果活用実態のレビューの指標の例 |
|---------|---|---|---|--|
| 中間評価 | 5年目の「中間評価」では、令和5年度から4年間の調査実施状況や、別途並行して実施される過去50年間の基礎調査データ等を用いた「総合解析」の結果を踏まえ、必要な調査項目・内容等の見直しを行う。 | <p>●5年目及び、10年目の評価にあたっては、基礎調査の成果に対する右記のような目標・指標等の設定や事例収集も検討する。</p> <p>▼とりまとめは調査結果を示すだけでなく、基礎調査の方向性や調査手法の検討等も含めたまとめが必要ではないか。調査方法やまとめ方の進化が常にある程度見える方がよい。</p> | <p>●調査のアウトプット量（例：どれだけ調査を実施したか）</p> <p>●生物多様性情報整備に関する施策の数値目標</p> | <p>●情報整備によって生じたアウトカム指標（例：調査データや解析結果がどのように保全施策に結び付き、自然環境が改善されたか）</p> <p>●アウトカムではなく一部のアウトプット（科学的知見の蓄積と政策活用）には役立つ（あるいはないとアウトプットを出ることができない）ことがわかるとよい。</p> <p>●基礎調査データの利用状況例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J-IBISのアクセス数、データの利用者層・利用目的・利用頻度等の年間値やその推移 例：自治体で活用されている事例等 <p>●基礎調査の重要性のアピールに有効な活用事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査成果を活用・引用した論文等のリスト等 ・調査成果を活用した保全活動・施策等 |
| とりまとめ | 10年目の「とりまとめ」では、令和5年度からの10年間の調査のとりまとめ・解析及び、次期10年間の調査計画の検討を2年程度で実施する。 | | | |